



2025～26 年度国際ロータリー・テーマ
RI 会長：フランチェスコ・アレツツォ

鹿屋西ロータリークラブ週報
WEEKLY REPORT
NEWS
<https://kanoya24-rc.synapse.kagoshima.jp>
ROTARY 第2158回



2026年5月17日(日) 地区研修・協議会(地区ラーニングアセンブリー) 於：鹿児島サンロイヤルホテル

2026年1月26日

◆会務報告

- 風の便り Vol.11 No.5
- ガバナー月信 2月号 (HP用)
- 大口ロータリークラブ創立 50周年
大口明光インターアクトクラブ創立 45周年
大口ローターアクトクラブ創立 40周年
記念式典・祝賀会開催のお知らせ
日時：令和8年4月18日(土)講演 13:00
記念式典 14:45～ 祝賀会 16:30～
場所：大口文化会館大ホール(講演・式典)
大口グリーンホテル(祝賀会)
- 第44回鹿屋市美術展表彰式及び美術を語る
夕べについて(ご案内)
期日：令和8年2月8日(日)
開式 18:00～ 表彰式 19:00～
会場：ホテルこぼやし
- RI 日本事務局財団室 NEWS 2026年2月号
- 串木野 RC 連絡先変更のお知らせ



会長の時間

会長 久木田 弘さん

皆さん、こんにちは。
市長選挙も終わり新しい市長が
選ばれました。大隅の発展が話題
となる鹿屋市に育ててほしいと
思います。



さて、ロータリーでは、この1
月を「職業奉仕月間」と定めています。

「職業奉仕」とは何でしょうか。それは単に“自分

の仕事をきちんとやる”ということにとどまりませ
ん。今月号のガバナー月信に「職業奉仕月間」につ
いて西本ガバナーはロータリーの目的の第2事項
を上げています。

「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て
価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として
ロータリアン各自の職業を高潔なものにする事」を
改めて認識してくださいといわれています。

即ち「職業を通じて奉仕する」という、私たちロー
タリアンの根本的な使命を思い出す月間です。

私たちはそれぞれ異なる職業を通じて、地域社会
や人々の生活に関わっています。そこにこそロータ
リーの原点“超我の奉仕”の精神が息づいています。
さて、この「職業奉仕」の実践にあたって、私たち
が常に指針とすべきものがあります。

それが「四つのテスト」です。

まずロータリーの基本理念のひとつ、「四つのテ
スト」がどのように生まれたのかをさかのぼると、
このテストを生み出したのは、アメリカの実業家ハ
ーバート・J・テラー。

1932年、彼は経営破綻寸前のクラブ・アルミニウ
ム社の再建を託されました。

彼は給与を八割カットし、自らの資金を投じて挑戦
します。彼が最初に着手したのは、社員のモラルの
立て直し。会社が信頼を取り戻すために、全員が共
通の判断基準を持つ必要があると考えたのです。

そこで生まれたのが「四つのテスト」です。

どうぞ心の中で唱えてみてください。

一つ 真実かどうか

二つ みんなに公平か

次回プログラム	
2月16日(月)	
卓話者:	下茂 正和 さん
担当委員会:	プログラム
3分間スピーチ:	有川 文人 さん
出席報告	
会員数	(36)39名
出席数	33名
出席率	91.67%

メイクアップ情報			
鹿屋	02月04日	(水)ホテルこぼやし	
かのや東	02月05日	(木)かのやランドホテル	
串良	02月02日	(月)セントロラント道の駅 第1週:理事会(例会無し)	
志布志	02月03日	(火)大黒リゾートホテル 第1週:例会無し	
きもつき	02月04日	⇒1日(日)IMへ振替	
南九州大崎	02月05日	(木)セントロラント道の駅 第1週:理事会(例会無し)	
志布志みなと	02月04日	⇒1日(日)IMへ変更	

鹿屋西ロータリークラブ	
会長:	久木田 弘
副会長:	山崎 隆夫
幹事:	西ノ原 一
例会日	月曜日 12:30～13:30
例会場	ホテルさつき苑 TEL:40-1212
事務局	〒893-0064 鹿屋市西原1丁目9-10
	ホテルさつき苑内 TEL:44-5811 FAX:41-1959
E-mail	kanoya24@po5.synapse.ne.jp



三つ 好意と友情を深めるか

四つ みんなのためになるかどうか

このテストは、会社の広告や営業活動にすぐ取り入れられました。

誇張や他社批判をやめ、事実のみを語る。

苦しい中でも倫理を守り抜いた結果、数年で会社は見事に再建されました。まさに「誠実さが利益を生む」ことを証明したのです。

やがて 1943 年、ロータリー・インターナショナルはこのテストを正式に採用し、今では世界中のロータリアンが共有する倫理の指針となっています。テラー氏はのちに RI 会長となり、この著作権をロータリーに無償で譲渡しました。

時代が変わり、AI やテクノロジーが進化する現代。今なお「四つのテスト」が私たちに何を問いかけているのか考えて見ます。

一つ 真実かどうか。

仕事の現場では、時に誘惑や妥協が訪れます。「少しくらいなら」「誰も見ていないから」そうした気のゆるみが信頼を失うきっかけとなります。偽りのない、正直、誠実さは、どんな時代でも職業人の規範となるべきと思います。

二つ みんなに公平か

この「みんなに公平か」と問われると商いをしていると中々難しい所があります。

お客様、取引先、社員、同僚、家族、私たちは日々、多くの人と関わっています。その中で、誰かにだけ都合の良い判断をしていないか。

自分の立場を優先していないか。

公平さを失うと、信頼も友情も長くは続きません。ここではどのような人にも同じように「公正な心構えを持つ」と解釈したいと思います。

三つ 好意と友情を深めるか。

人としての温かいつながりを築き相手を思いやり、感謝を忘れずに接することで、職場の雰囲気も明るくなり、より良い人間関係を気づき上げることによって職場も地域も明るくなって、ビジネスも良い成果につながると思います。

四つ みんなのためになるかどうか。

自分の仕事が誰かの幸せにつながっているか。利益だけでなく、社会全体の喜びに貢献できているか。この視点を持つことで、奉仕の場へと変わります。どんな職種であっても、「みんなのために」

という心を持てば、それは立派な職業奉仕になると思います。

この四つのテストの「真実」「公平」「友情」「みんなの幸せ」という価値は、今も変わらずロータリーの行動の羅針盤です。また四つのテストは、ビジネスだけでなく、家庭や地域社会、人間関係すべてに通じる行動規範となることで明るい幸せな社会を目指していると思います。

日々の判断に迷ったとき、この四つの問いを思い出してみてください。

きっと正しい道を照らしてくれることと思います。ご静聴、ありがとうございました。



3分間スピーチ

吉行哲弘さん

鹿屋支店に赴任する前にいた、宮崎県日向市の話をしたと思います。

日向市は宮崎県の北東部に位置し、人口 55,956 人でサーフィンの全国大会が開催されるなどサーフィンのメッカと言われています。

また、ひよっこ踊りが有名です。

毎年 8 月の第一土曜日に日向ひよっこ夏祭りが開催され、全国から約 2,000 人の踊り手が参加します。

赤い着物、白帯、豆絞りの手拭いを身にまとい、独特なお面を付けた踊り手が笛や太鼓に合わせてユーモラスに体をくねらせて練り歩きます。

起源は、日向市塩見永田地区に伝わる「永田のひよっこ踊り」が基になっており、日向市の無形民族文化財に指定されています。

踊りの物語としては、子宝に恵まれない夫婦（ひょう助とおかめ）がお稲荷様に祈願したところ、狐が現れ、おかめを誘うように踊り出したことが始まりとされ、物語のユーモラスな様子が表現されています。

私が住んでいた日向市の財光寺にある五十猛神社では、毎年 11 月 2 日から 3 日に「五十猛例大祭」が開催され、40 歳の厄年を迎えた男性達が、ひよっこ、おかめ、きつねの面をつけ厄払いのひよっこ踊りを奉納する地域に根付いた伝統ある祭りがあります。

地域の「入厄（いりやく）」の男性達が 1 月から竹を切り出し、笛を作り、またお面も手作りで準備します。



ひょっとこは漢字で「火男（ひおとこ）」と書き、かまどの神（火の神）を象徴しています。常に火を絶やさず、一生懸命に火を吹いて働く姿から家内安全や商売繁盛の守り神として尊ばれています。

踊りは踊る側も見る側も笑顔になることで、心の「陰」を払い、清らかな心を取り戻す効果、精神の浄化があると伝えられています。

五十猛神社のひょっとこ踊りは、単なる芸能でなく、地域の平穏を願う「神事（しんじ）」としての深い意味を持っています。

自分たちの厄を払い、地域に降りかかる災厄を代わりに引き受けて掃き清める「禊（みそぎ）」の役割を果たします。

厄年の踊り手は例大祭の2日間は夜通し、町の事業所や個人宅を踊り回り厄を払います。そして最後に五十猛神社にひょっとこ踊りを奉納します。この時間だけではとても伝えきれない神秘的な踊りです。今年も11月に開催される予定です、興味がある方は是非足を運んでみてください。

以上です、ありがとうございました。



会員卓話

西丸晴彦さん

皆さま、こんにちは。
本日もこのような機会を頂きありがとうございます。
会員増強委員会の西丸でございます。

本日は、

「なぜ今、会員増強がこれほど重要なのか」

そして

「どうすれば、無理なく、自然に会員が増えていくクラブになるのか」

この二点について、お話しさせていただきたいと思っております。

1. 会員増強は「数の問題」ではなく「存続の問題」

まず最初に、少し厳しい話からさせていただきます。
多くのロータリークラブが

- ・会員数の減少
- ・平均年齢の上昇
- ・役員のみならず手不足

という課題を抱えています。

これは鹿屋西ロータリークラブだけの話ではなく、**全国的な傾向**です。

ここで一つ、皆さまに問いかけたいと思っております。

「もし、このまま会員が減り続けたら、このクラ

ブは10年後どうなっているのでしょうか？」

例会は維持できるのでしょうか。

奉仕活動は継続できるのでしょうか。

地区行事への参加はどうでしょうか。

会員増強は、「**元気なクラブをつくるための活動**」ではなく、「**クラブが存続するための生命線**」と言っても過言ではありません。

2. 「誰かがやるだろう」が一番危ない

よく聞く言葉があります。

「会員増強は委員会がやるものでしょう？」

これは、実は一番危険な考え方です。

会員増強は、**会員増強委員会の仕事ではなく、会員全員の仕事**です。

なぜなら、新会員は

- ・チラシから入ってくるわけでもなく
- ・ホームページから突然申し込んでくるわけでもなく、**ほぼ100%、誰かの紹介で入会している**からです。

つまり、「あなたの周りにいる人」

この中に未来のロータリアン候補が必ずいます。

3. 「良い人がいない」のではなく「声をかけていない」

「今の時代、ロータリーに入ってくれる人なんていないよ」

これは本当でしょうか？

私は、違うと思っています。

- ・地域のために何かしたい人
 - ・人脈を広げたい人
 - ・経営者として学びたい人
 - ・若手経営者で、仲間を求めている人
- こういう人は、実はたくさんいます。

ただ一つ違うのは、

「ロータリーの存在や魅力を、誰も教えてあげていない」ということです。

入会しない理由の多くは「知らないから」「誘われていないから」この二つです。

4. 「ロータリーは敷居が高い」という誤解

多くの人が、ロータリーに対してこう思っています。

- ・偉い人の集まり
- ・お金がかかりそう
- ・時間も取られそう
- ・自分にはレベルが高そう

しかし、実際に入会してみるとどうでしょうか。

- ・意外とアットホーム
- ・意外と楽しい
- ・意外と勉強になる

・意外と居心地がいい

この「ギャップ」こそが、ロータリーの魅力でもあります。私たちは、この本当の姿を、外に伝えているのでしょうか？

5. 勧誘のコツは「口説く」ことではない

会員増強というと

「どうやって説得するか」と考えがちですが、実は違います。

大事なものは、「一緒にやろうよ」「一緒に地域のために動こうよ」この仲間意識です。

営業トークは必要ありません。

必要なのは、「あなたと一緒に活動したい」という気持ちです。

6. 入会しても「楽しくなければ」続かない

もう一つ大切なことがあります。

それは、「入会しても、楽しくなければ続かない」ということです。

せっかく入っていただいても、

- ・発言しづらい
- ・居場所がない
- ・役職ばかり回ってくる
- ・知り合いができない

こうなると、退会につながってしまいます。

会員増強と同じくらい大切なのが「退会防止」です。

新会員が「入って良かった」

「このクラブ、居心地がいい」と思える雰囲気づくりは、**全員の役割**です。

7. 今日からできる、たった一つのこと

ここで、皆さまにお願いがあります。

「今年1年で、たった1人でいいので、声をかけてみてください」それだけで、クラブは大きく変わります。

全員が1人ずつ声をかければ、どうなるでしょうか？ それはもう「奇跡」ではなく「仕組み」になります。

8. ロータリーは「人生を豊かにする場所」

最後に、私自身の実感をお話しします。

ロータリーに入って

- ・人との出会いが増えました
- ・考え方の幅が広がりました
- ・地域との関わりが深くなりました

そして何より

「志を同じくする仲間ができた」

これは、人生にとって大きな財産です。

この価値を、次の世代にも必ず引き継いでいきたい。私はそう思っています。

9. 締めくくり

会員増強は、誰かがやる仕事ではありません。

私たち一人ひとりが、クラブの未来をつくる当事者です。どうか皆さま、

「この人と一緒にロータリーをやりたいな」

そんな方の顔を、今日一度思い浮かべてみてください。そして、**勇気を出して声をかけてみてください**。それが、鹿屋西ロータリークラブの未来をつくる、確かな一歩になります。

ご清聴、誠にありがとうございました。

皆様方の机の上に置いています「紹介者カード」は、以前、役員・理事で精査して20名に絞ったものになります。紹介者の方、ぜひ、もう一度お声をかけていただき、入会につながる様お願い申し上げます。



◆スマイル報告

○本日の米山 BOX スマイルは 2,541 円です。

累計(一般) 191,600 円

(財団) 67,464 円 (米山) 97,643 円

****** ありがとうございました ******

ロータリーニュースより

犬の散歩中に夫婦で思いついた「心の応急処置」

紙に描かれた T シャツのイラスト。

そこには、ひそかにうつ病を抱える人に対して周囲が抱く偏見やレッテルが書かれています。「孤立した怠け者」「ネガティブな人」「チームで働けない」「愚痴ばかり」——次々と出てくる言葉から、偏見の根深さが伺えます。

2 日間の講座の最初に行われるこの演習で、参加者は、需要が高まっている「心の応急処置」(mental health first aid) のスキルを学びます。講座を修了した人たちは、メンタルヘルスの不調を初めて経験する人や悪化しつつある人と対話しサポートするための自信と手段を身につけます。このような応急処置を通じて、電話相談やカウンセラー、地元支援団体、医師などにつながることができます。

この講座のアイデアは、夫婦で犬の散歩をしているときに思いつきました。25 年前にオーストラリアでロータリークラブの支援を受けて講座が始まり、現在は 40 カ国以上で 800 万人以上が受講。米国ではレディー・ガガが、ティーン (10 代) 向け研修の普及活動を行ったこともあります。

週報担当：前田 (数)